

2023年度第2回岩手医科大学附属病院医療安全に係る監査委員会 議事録

1. 日時：2024年2月20日（火）17時57分～19時26分

2. 会場：岩手医科大学附属病院 10階研修室

3. 出席者：【委員】佐藤伸之委員長、長谷川頌委員、奥寺高秋委員

【病院側】小笠原病院長、肥田副院長/医療安全管理部長、鈴木副院長/医療機器安全管理責任者、佐藤副院長/看護部長、田中医療放射線安全管理責任者、工藤薬剤部長、朝賀医薬品安全管理責任者、遠藤病院事務部長、病院企画課、医療安全管理部
(※欠席：鎌田内部監査室長)

4. 監査内容及び結果：

(1) 前回議事録の確認

前回監査委員会の議事録の提示があり、内容について確認が行われた。

(2) 2023年度活動状況中間報告について

肥田医療安全管理部長から、一昨年の11月に転倒に基づく医療事故が発生したとの報告があり、当該事例について今回報告を行うこと、事例を受けて転倒・転落に対する対策が必要であり、また、転倒・転落の要因としてせん妄が背景にあることから、2023年度活動計画に転倒・転落、せん妄への取り組みが重要事項として入っているとの説明があった。

1) 2023年度活動計画中間報告

浅尾専従看護師長並びに岩泉専従主任看護師から、資料及びスライドを用いて2023年度活動計画に対する取り組み、中間結果について説明があった。

2) 2022年度のインシデント報告から見えた課題の中間報告

①病棟定数配置薬適正化に向けた取り組み

小野専従薬剤師から、資料及びスライドを用いて病棟定数配置薬適正化に向けた取り組みについて説明があった。

②口頭指示の適正化に向けた取り組み

浅尾専従看護師長から、資料及びスライドを用いて口頭指示の現状、適正化に向けた取り組みについて説明があった。

(3) 医療事故事例（医療事故調査・支援センター報告事例）について

肥田医療安全管理部長から、院内で発生した医療事故事例（2事例）について資料を用いて説明、報告があった。

5. 総評

- ・インシデント報告数について、レベル0報告も多く、インシデント報告への取り組みは行き渡っているのではないかと感じる。
- ・インシデント報告は軽微なものに気づけることが大事だと思う。また、インシデント報告の方法が楽だと報告数が増えるのではないかと感じた。
- ・病棟配置薬について、薬はオーダーがあって処方されることが基本であり、テクニカルな問題で対応できると思うので、なるべく無くす方向で検討いただきたい。

- ・指示に関して、なるべく入院時に行うこと、出張等で不在の場合は誰かがカバーして行うことはすぐできることだと思う。
- ・大学病院で規模が大きく、伝統などもありそれを打ち破るのも大変だと思うが、一歩ずつ取り組んでいただきたい。
- ・問題・課題解決に向けたチームの組織、個々の対策等、大変努力をされていると思う。
- ・医療事故事例を公表する場合は、表現の違いなどを気にする方もいるかもしれない。謙譲語や尊敬語などを使わずに事実関係を端的に記すような形でも理解を得られると思うので検討いただきたい。
- ・患者の立場で考えると、大学病院には大きな不安とともにかなり大きな信頼感をもって通院していると思うので、非常に忙しいのは重々承知しているが期待に十分に答えていただきたい。
- ・患者、患者家族に対しては、忙しい中でも笑顔を絶やさず、分かりやすい説明をしていただきたい。また、目を見て、丁寧な言葉遣いでお話いただき安心感を与えていただきたい。
- ・患者、患者家族は言いづらいものを持っていると思うので、一方的な説明ではなく気持ちを引き出す、聞きだすような会話、話術を発揮していただきたい。

以上をもって、医療安全に係る監査委員会規程第2条ならびに第3条に基づく監査を終了したことを確認した。報告書を作成しホームページに公表するものとする。

令和6年7月24日

委員長 伍藤 伸之
委員 長谷川 頌
委員 奥寺 高秋